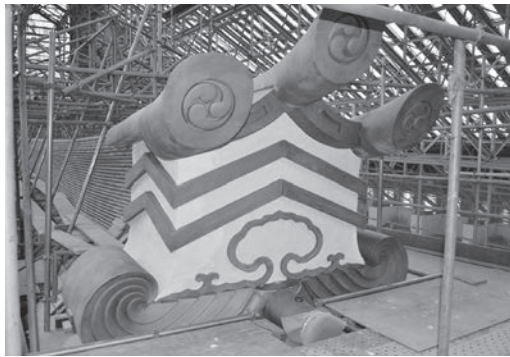




漆喰を塗りこむ左官工事

調整を終えた瓦は、組上げ作業に際しても、勢い良く瓦を合わせると互いに傷む可能性があるため、組合せの瞬間まで、ゆっくりと慎重に瓦を合わせていきます。そして、重ねられた瓦を銅線や番線などですっきりと固定していきます。続いて、荒縄が巻かれるなど、合わせ目を中心に漆喰を塗りこんでいく作業が行われます。瓦の表面には漆喰をしっかりと塗り込めるように表面に凹凸がつけられるとともに、荒縄が巻かれるな

どの加工が施されています。そして、下塗り、中塗り、上塗りと塗り込み作業と乾燥を繰り返しながら、じっくりと仕上げていきます。これにより、燻し瓦の色と漆喰の白色とのコントラストの美しい外観に仕上がっていくのです。このたびの獅子口瓦の葺き上げ作業をはじめとして、御修復工事の中では現代の機械を用いて作業を進めています。明治の再建時には重機もない中でどのように作業がなされていたのか、不思議というほかありません。



中塗りまで済んだ獅子口瓦

### 阿弥陀堂御修復「指定寄付のお願い」

阿弥陀堂の御修復に伴い、「工事」並びに「仏具」を対象とした指定寄付（174口：1口100万円）と垂木鼻 鋳金物（1,240口：1口5万円）を対象とした指定寄付を募集しております。全国の有縁の皆様より尊いご懇念を賜りますよう、何卒ご奨励、ご協力をお願いいたします。



修復前の垂木鼻鋳金物



修復後の垂木鼻鋳金物

※阿弥陀堂・御影堂門御修復懇志につきましても募集しておりますので、あわせてご協力をお願いします。



# 御修復のあゆみ

〜 伝承された先達の願い

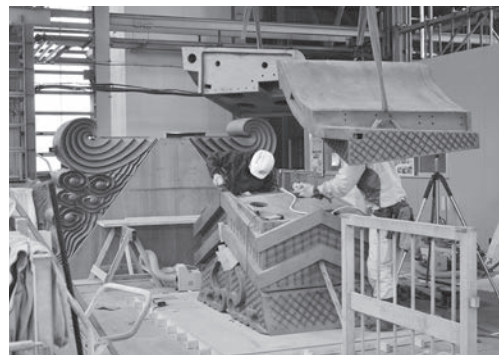
## 阿弥陀堂獅子口瓦の組上げ

阿弥陀堂御修復では、屋根改修をはじめ、鋳金物、左官などの外部にかかる工事が、順調に進捗しています。特に屋根改修工事では、この夏、すべての瓦の葺き上げを目指して急ピッチで仕上げの作業が進められています。



獅子口瓦製作の様子

現在、阿弥陀堂屋根面では、最上部の大棟や降棟などの棟積み作業に入り、大棟の南北両端にある「獅子口瓦」の組上げが慎重に行われています。大棟の獅子口は、御影堂と違って傷みが激しいため、新たに製作することになりました。この製作にあたっては、粘土を焼成していく過程で収縮などの変形が予測されるため、あらかじめ含水率や焼成温度から収縮率が計算されます。しかし、それでも完成段階では数ミリの誤差が生じ、そのままの組上げでは歪みや内部への影響が懸念されるため、最終的に現場での仮組み中にわずかな誤差をグラインダー（研削盤）で削りながら調整する作業を必要としま

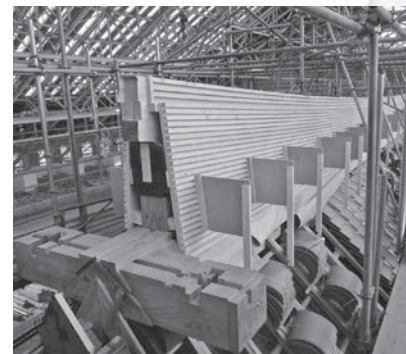


仮組して瓦を調整しています

す。あの勇壮で繊細な造形の獅子口瓦は、完成まで気の遠くなるほどの調整を重ねているのです。そして、仮組を行って調整された瓦は組上げ順に応じて、クレーンで大棟まで引き上げられました。



獅子口瓦の組上げ



獅子口瓦を組む前の台座